

シラバス対応表（歯学科5年生）

歯学科専門科目

講義番号	科目名	開講学期 ▲1学期 ▼2学期 ●通年	単位	担 当 (教育研究分野)	頁
220DS501	摂食嚥下障害学	▲ 4月～7月	1	摂食嚥下リハビリテーション学分野	238
220DS502	全身管理学	▲ 4月～7月	2	歯科麻酔学分野	240
220DS503	医科学Ⅲ	▲ 4月～7月	2	眼科学分野（医学科） 産科婦人科学分野（医学科） 精神医学分野（医学科） 耳鼻咽喉科・頭頸部外科分野（医学科） 皮膚科分野（医学科）	242
220DS504	総合模型実習	▲ 4月～9月	3	生体歯科補綴学分野 臨床系各分野	245
220DS505	口腔と全身との関わり	▲ 4月～9月	2	組織再建口腔外科学分野 顎顔面口腔外科学分野 顎顔面放射線学分野 歯科麻酔学分野 口腔病理学分野 摂食嚥下リハビリテーション学分野	247
220DS506	口腔インプラント学	▲ 4月～6月	1	生体歯科補綴学分野	248
220DS507	臨床予備実習	▲ 4月～9月	8		249
220DS508	臨床実習Ⅰ	▼ 10月～3月	17	歯学教育研究開発学分野 臨床系各分野	251

令和4年度 歯学科 5年生 時間割表

〈第1学期〉

曜限 月日	月曜日					火曜日					水曜日					木曜日					金曜日				
	1限	2限	3限	4限	5限	1限	2限	3限	4限	5限	1限	2限	3限	4限	5限	1限	2限	3限	4限	5限	1限	2限	3限	4限	5限
4月	1																								
	4-8																								
	11-15	口腔インプラント学	眼科学	総合模型実習					口腔と全身のかかわり		摂食嚥下障害学		耳鼻咽喉科学		臨床予備実習					臨床予備実習					
	18-22																								
	25-29																			(祝日)					
全身管理学																									
5月	2-6	(祝日)																							
	9-13	全身管理学	眼科	(祝日)					(祝日)					(祝日)					臨床予備実習						
	16-20																								
	23-27																								
産科婦人科学																									
6月	5/30-3	全身管理学	産科婦人科学	総合模型実習					口腔と全身のかかわり		摂食嚥下障害学		耳鼻咽喉科学		臨床予備実習					臨床予備実習					
	6-10																								
	13-17																								
	20-24																								
7月	6/27-1	全身管理学	精神医学	総合模型実習					口腔と全身のかかわり		摂食嚥下障害学		皮膚科学		臨床予備実習					臨床予備実習					
	4-8																								
	11-15																								
	18-22			(祝日)									共用試験CBT体験テスト					共用試験CBT							
	25-29																								
8月	1-19	夏期休業 7/25~8/26																							
	22-26	共用試験CBT再試験																							
9月	8/29-2	臨床予備実習		総合模型実習					口腔と全身のかかわり		臨床予備実習		臨床予備実習					臨床予備実習							
	5-9																								
	12-16																								
	19-23	(祝日)					臨床予備実習												共用試験OSCE						
	26-30	臨床予備実習																臨床予備実習							
週数	16					16					16					16					16				

共用試験OSCE : 9月23日 (金)

1限 8:30~10:00 / 2限 10:15~11:45 / 3限 12:55~14:25 / 4限 14:40~16:10 / 5限 16:25~17:55

令和4年度 歯学科 5年生 時間割表

〈第2学期〉

曜限 月日	月曜日					火曜日					水曜日					木曜日					金曜日								
	1限	2限	3限	4限	5限	1限	2限	3限	4限	5限	1限	2限	3限	4限	5限	1限	2限	3限	4限	5限	1限	2限	3限	4限	5限				
10月	3-7	臨床予備実習				臨床予備実習				臨床予備実習																			
	10-14	(祝日)															臨床実習 I												
	17-21	臨床実習 I					臨床実習 I					臨床実習 I				(祝日)					臨床実習 I								
	24-28											臨床実習 I																	
10/31-4																													
11月	7-11	臨床実習 I					臨床実習 I									臨床実習 I													
	14-18											臨床実習 I									(祝日)								
	21-25																												
	11/28-2																								臨床実習 I				
12月	5-9											臨床実習 I																	
	12-16						臨床実習 I																						
	19-23																												
	26-30																												
	冬期休業 12/27~1/6																												
1月	2-6																												
	9-13	(祝日)																											
	16-20	臨床実習 I					臨床実習 I					臨床実習 I				臨床実習 I													
	23-27											臨床実習 I																	
1/30-3																													
2月	6-10	臨床実習 I					臨床実習 I					臨床実習 I				臨床実習 I													
	13-17											臨床実習 I									(祝日)								
	20-24																												
	2/27-3																								臨床実習 I				
3月	6-10											臨床実習 I																	
	13-17																												
	20-24																												
	27-31																												
	卒業式																												

共用試験CPX : 1月10日(火)~10月31日(月)

1限 8:30~10:00 / 2限 10:15~11:45 / 3限 12:55~14:25 / 4限 14:40~16:10 / 5限 16:25~17:55

科目名：摂食嚥下障害学

担当教員名(所属)：井上 誠、辻村 恭憲、真柄 仁、伊藤 加代子、道見 登(非)、藤谷 順子(非)

開講番号：220DS501

開講学期：第1学期

水準：14

単位数：1単位

対象学部等：歯学部歯学科5年生

【科目概要】

摂食機能に異常をもたらす疾患や加齢に基づく全身ならびに顎口腔系の形態学的・機能的変化を理解し、臨床アプローチの基本を学ぶとともに、摂食機能に問題を抱える高齢者や重度心身障害者を取り巻く歯科口腔保健に関わる社会環境やその問題点を集学的に学修する。

※医師、歯科医師としての実務経験のある教員が、その経験を活かし、臨床の場で実践できる内容の授業を行う。

【科目のねらい】

多様化する社会のニーズに対応のできる歯科医の教育を目的として、摂食機能に問題を抱える有病高齢者や重度心身障害者をもつ生物学的特徴や社会背景を正しくとらえたうえで適切な医療を提供するための方略を理解する。

【学習の到達目標】

- ・摂食嚥下機能の正常像と病態像を説明する。
- ・摂食嚥下機能障害者に対する臨床的アプローチの手段を説明する。
- ・高齢者や全身疾患をもつ患者に対して行う歯科治療に際しての注意点を説明する。
- ・要介護高齢者における口腔ケアのもつ重要性について説明する。
- ・摂食嚥下障害の病態像や疾患を取り巻く社会状況に関する新たな知見について説明する。

【授業実施形態について】

講義ならびに課題に対するグループ単位での発表を行う。

講義では前回の内容について小テストにてその復習を行う。

【登録のための条件(注意)】

- ・摂食機能に関する解剖学、生理学の知識があることが望ましい。
- ・高齢者の社会福祉に興味をもって臨むことが望ましい。
- ・講義資料は分野HPに掲載するため、各自でダウンロードし一読してから授業に臨むこと。

【授業計画】

回	日時	講義内容(担当)	授業時間外の学修
1	4/13(水) 3限	総論(井上)	前もって配布された講義資料を十分に読んでおくこと。授業中に用いた配布資料やレポート課題に照らし合わせて十分な事後学習を行いレポート提出とすること。
2	4/20(水) 3限	摂食嚥下の解剖と生理(井上)	前もって配布された講義資料を十分に読んでおくこと。授業中に用いた配布資料やレポート課題に照らし合わせて十分な事後学習を行いレポート提出とすること。
3	4/27(水) 3限	摂食嚥下機能検査と評価(井上)	前もって配布された講義資料を十分に読んでおくこと。授業中に用いた配布資料やレポート課題に照らし合わせて十分な事後学習を行いレポート提出とすること。
4	5/11(水) 3限	摂食嚥下障害の治療計画(井上)	前もって配布された講義資料を十分に読んでおくこと。授業中に用いた配布資料やレポート課題に照らし合わせて十分な事後学習を行いレポート提出とすること。
5	5/18(水) 3限	摂食嚥下リハビリテーションとは(井上)	前もって配布された講義資料を十分に読んでおくこと。授業中に用いた配布資料やレポート課題に照らし合わせて十分な事後学習を行いレポート提出とすること。
6	5/25(水) 3限	脳血管疾患と神経難病の摂食嚥下障害(井上)	前もって配布された講義資料を十分に読んでおくこと。授業中に用いた配布資料やレポート課題に照らし合わせて十分な事後学習を行いレポート提出とすること。
7	6/1(水) 3限	摂食嚥下障害に対するチームアプローチ(道見)	前もって配布された講義資料を十分に読んでおくこと。授業中に用いた配布資料やレポート課題に照らし合わせて十分な事後学習を行いレポート提出とすること。
8	6/1(水) 4限	摂食嚥下障害における医科と歯科の連携(藤谷)	前もって配布された講義資料を十分に読んでおくこと。授業中に用いた配布資料やレポート課題に照らし合わせて十分な事後学習を行いレポート提出とすること。

9	6/8 (水) 3限	頭頸部腫瘍後遺症と歯科的要素にかかわる摂食嚥下障害 (真柄)	前もって配布された講義資料を十分に読んでおくこと。授業中に用いた配布資料やレポート課題に照らし合わせて十分な事後学習を行いレポート提出とすること。
10	6/8 (水) 4限	発達障害の摂食嚥下リハビリテーション (辻村)	前もって配布された講義資料を十分に読んでおくこと。授業中に用いた配布資料やレポート課題に照らし合わせて十分な事後学習を行いレポート提出とすること。
11	6/15 (水) 3限	要介護高齢者の口腔ケア (伊藤)	前もって配布された講義資料を十分に読んでおくこと。授業中に用いた配布資料やレポート課題に照らし合わせて十分な事後学習を行いレポート提出とすること。
12	6/22 (水) 3限	その他の摂食嚥下障害 (井上)	前もって配布された講義資料を十分に読んでおくこと。授業中に用いた配布資料やレポート課題に照らし合わせて十分な事後学習を行いレポート提出とすること。
13	6/29 (水) 3限	課題発表のためのディスカッション	ディスカッションに必要な文献を用意し、事前に読んでおくこと。授業中に用いた配布資料を用いて十分な事後学習を行うこと。
14	7/6 (水) 3限	課題発表	ディスカッションに必要な文献を用意し、事前に読んでおくこと。授業中に用いた配布資料を用いて十分な事後学習を行うこと。
15	7/13 (水) 3限	課題発表	ディスカッションに必要な文献を用意し、事前に読んでおくこと。授業中に用いた配布資料を用いて十分な事後学習を行うこと。
16	7/20 (水) 3限	先端研究 (辻村・真柄)	前もって配布された講義資料を十分に読んでおくこと。授業中に用いた配布資料やレポート課題に照らし合わせて十分な事後学習を行いレポート提出とすること。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験 (90%) ならびに態度および課題の発表内容 (10%) により評価する。

【使用テキスト】

指定しない。講義資料をHPに掲載する。

【参考文献】

新版歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学 医歯薬出版 (税抜8,000円) ISBN 978-4-263-45840-2

【関連リンク】

<http://www5.dent.niigata-u.ac.jp/~dysphagia/education/dentistry/index.html>

科 目 名：全身管理学

担当教員名(所属)：瀬尾 憲司、岸本 直隆、田中 裕、倉田 行伸、弦巻 立、金丸 博子、小山 諭(保)、照光 誠(非)

開 講 番 号：220DS502

開 講 学 期：第1学期

水 準：14

単 位 数：2単位

対 象 学 部 等：歯学部歯学科5年生

【科目概要】

歯科・口腔外科における周術期管理のために必要な知識を学び、全身管理計画の症例検討を通じて麻酔計画の立案方法を学習する。また、歯科医療に関連する医学知識についてもオムニバス形式の講義を通じて学ぶ。

※歯科医師としての実務経験のある教員が、その経験を活かし、臨床の場で実践できる内容の授業を行う。

【科目のねらい】

痛みを診断し治療ができるように病態を理解した上で、口腔外科の手術実施において、全身麻酔と精神鎮静法による周術期の全身管理として、麻酔計画を立てられるようになる。また、小児・高齢者・障害者の生理学的特徴と麻酔法を理解する。

その他、栄養学では食べることの重要性とその意義、生きるために必要な栄養摂取の考え方を、輸血学では輸血に対する合併症と実施の基本的概念や目的を、東洋医学では漢方薬の使い方を理解する。さらに患者の症状を理解するための心療内科学や歯科心身症の診断方法、歯科における緊急対処法や災害における歯科医師の役割を理解する。

【学習の到達目標】

- ・ 痛みの発生機序とその病態・主な神経疾患の治療を理解する。
- ・ 小児・高齢者・障害者の全身管理法を理解する。
- ・ 患者資料を基に、全身麻酔・局所麻酔の周術期の治療・患者管理計画が立てられる。
- ・ 食べることの意義を理解する。
- ・ 生命維持に必要な栄養管理の方法を理解する。
- ・ 輸血についての基礎知識を理解する。
- ・ 心を原因としたさまざまな身体表現性の病態を理解する。
- ・ 歯科診療に必要な心の病の対応方法を理解する。
- ・ 東洋医学の考え方、また漢方医学に関する基礎知識を理解する。
- ・ 歯科における漢方医学の有効性を理解する。
- ・ 救急蘇生法の基礎概念と、歯科における対処法を理解する。
- ・ 歯科治療中に発生した緊急時の薬物治療を理解する。
- ・ 心電図に関する基礎知識を修得する。
- ・ 大規模災害における医療の概要と歯科医師としての役割を理解する。

【授業実施形態について】

全身管理計画と東洋医学ではプロダクトの作成および発表を行い、その内容の完成度を評価する。その他の回は講義形式の授業を主体とする。

【登録のための条件(注意)】

規定内の出席が必要

【授業計画】

回	日時	講義内容(担当)	授業時間外の学修
1	4/11(月)1限	全身麻酔管理症例検討会の見学(倉田)・歯科全身管理計画の立て方①(倉田)	
2	4/11(月)2限	歯科全身管理計画の立て方②(倉田)・心電図学(瀬尾)	
3	4/18(月)1限	小児・障害者歯科麻酔(金丸)	小児・障害者の口腔外科治療について
4	4/18(月)2限	高齢者・妊婦の歯科治療管理習(金丸)	高齢者・妊婦の特性について
5	4/25(月)1限	歯科全身管理計画(症例検討)(瀬尾)	麻酔計画のプロダクトの発表準備
6	4/25(月)2限	歯科全身管理計画(症例検討)(瀬尾)	麻酔計画のプロダクトの発表準備
7	5/2(月)1限	神経疾患1(照光)	関連する書籍を予習
8	5/2(月)1限	神経疾患2(照光)	〃
9	5/9(月)1限	糖代謝(横山)	関連する書籍を予習
10	5/9(月)2限	救急蘇生(横山)	関連する書籍を予習
11	5/16(月)1限	歯科全身管理計画(症例検討)(瀬尾)	麻酔計画のプロダクトの発表準備
12	5/16(月)2限	歯科全身管理計画(症例検討)(瀬尾)	麻酔計画のプロダクトの発表準備
13	5/23(月)2限	歯科全身管理計画(症例検討)(瀬尾)	麻酔計画のプロダクトの発表準備
14	5/23(月)1限	歯科全身管理計画(症例検討)(瀬尾)	麻酔計画のプロダクトの発表準備

15	5/30 (月)	1限	心療内科学 (田中)	
16	5/30 (月)	2限	歯科全身管理計画 (症例検討) (瀬尾)	麻酔計画のプロダクトの発表準備
17	6/6 (月)	1限	歯科全身管理計画 (症例検討) (瀬尾)	麻酔計画のプロダクトの発表準備
18	6/6 (月)	2限	歯科全身管理計画 筆記試験	歯科全身管理計画について復習
19	6/13 (月)	1限	外科代謝栄養学1 (小山)	関連する書籍を予習
20	6/13 (月)	2限	外科代謝栄養学2 (小山)	〃
21	6/13 (月)	3限	栄養学1 (小師)	〃
22	6/13 (月)	4限	栄養学2 (小師)	〃
23	6/20 (月)	1限	輸血学1 (牛木)	〃
24	6/20 (月)	2限	輸血学2 (牛木)	〃
25	6/27 (月)	1限	災害医療1 (高橋)	〃
26	6/27 (月)	2限	災害医療2 (高橋)	〃
27	7/4 (月)	1限	東洋医学総論 (瀬尾)	〃
28	7/4 (月)	2限	東洋医学基礎 (弦巻)	〃
29	7/11 (月)	1限	歯科東洋医学1 (田中)	〃
30	7/11 (月)	2限	歯科東洋医学2 (田中)	課題学習のプレゼンテーション準備

【成績評価の方法と基準】

プロダクトの評価 (50%)、筆記試験 (50%) により総合的に判断する。

【使用テキスト】

各講師により適宜紹介される

【参考文献】

瀬尾 憲司 著「これで一次救命処置はわかった AHAガイドライン2015に沿ったBLSの理解のために」医歯薬出版 (3,600円)

柿木 保明・他編著「歯科漢方医学」永末書店 (2,800円)

科目名：医科学Ⅲ

開講番号：220DS503

開講学期：1学期

水準：13

単位数：2単位

対象学部等：歯学部歯学科5年生

【科目概要】

歯科医療を行う上では、口腔内や顎顔面領域の疾患と全身疾患との関連について理解する必要がある。また、医科歯科連携のためにも基礎的な医学的知識を身につけることは重要である。本授業では「眼科学」「産科婦人科学」「精神医学」「耳鼻咽喉科学」「皮膚科学」の講義を行い、各領域における代表的疾患の基礎知識、およびそれらと歯科疾患との関連について学習する。

【科目のねらい】

歯科医師として適切な対応がとれるよう、医科の各領域における代表的疾患に関する基礎的知識を習得する。また、それらの疾患について歯科疾患との関連を理解する。

【成績評価の方法と基準】

「眼科学」「産科婦人科学」「精神医学」「耳鼻咽喉科学」「皮膚科学」のそれぞれについて評価を行い、すべて60点以上の者を合格とする。

※各試験科目の「学習の到達目標」「授業実施形態について」「登録のための条件（注意）」「授業計画」「成績評価の方法と基準」「参考文献」は以下に示す。

試験科目名：眼科学

担当：眼科学分野

【学習の到達目標】

- ・視覚器、視覚路、眼球附属器、眼窩の解剖を図示できる。
- ・眼の主要な血管・神経系の走行および機能を説明・列挙できる。
- ・視力、視野、対光反応、暗順応、調節についてその内容と検査法を説明できる。
- ・代表的な眼科疾患（緑内障、白内障、網膜症）の原因、病態、症状、検査、治療を理解する。
- ・全身状態（高血圧、動脈硬化、糖尿病、皮膚炎、薬剤、中毒など）と眼（眼底所見など）の関連について理解する。
- ・歯科と関連の深い眼窩疾患（海綿静脈洞血栓など）の病態原因、病態、症状、検査、治療を説明できる。

【授業実施形態について】

- ・スライド、資料を用いた講義を行う。

【登録のための条件（注意）】

- ・講義内容について資料等を復習すること。

【授業計画】

回	日時	内容（担当）	授業時間外の学修
1	4/12（火）1限	総論・解剖・緑内障（赤木）	眼球や脳神経に関する解剖学・生理学の確認
2	4/19（火）1限	網膜・糖尿病網膜症（吉田）	
3	4/26（火）1限	白内障・角膜・角膜移植（松田）	
4	5/10（火）1限	視神経・斜視弱視、試験（植木）	

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（100%）により評価を行う。

【参考文献】

中澤 満・他編「標準眼科学（第14版）」医学書院（7,000円）

試験科目名：産科婦人科学

担当：産科婦人科学分野

【学習の到達目標】

- ・性ホルモン、性徴、月経異常、更年期障害について説明できる。
- ・生殖器疾患の疫学・診断・治療について説明できる。
- ・周産期における諸問題について理解する。
- ・不妊症について理解する。
- ・妊産婦の歯科治療時の注意点を理解する。

【授業実施形態について】

- ・スライド、資料を用いての講義を行う。

【登録のための条件（注意）】

- ・参考文献等を用いて予習・復習すること。

【授業計画】

回	日時	授業内容（担当）	授業時間外の学修
1	5/24（火）1限	女性生殖器疾患、性感染症	内分泌系・生殖器の解剖学・生理学の確認
2	5/31（火）1限	性ホルモンと性周期、不妊治療	
3	6/7（火）1限	妊産褥婦ならびに新生児異常、出生前診断	
4	6/14（火）1限	試験	

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（100%）により評価を行う。

試験科目名：精神医学

担当：精神医学分野

【学習の到達目標】

- ・精神疾患およびその概念を説明できる。
- ・精神疾患の疫学、病因および病態生理を説明できる。
- ・精神疾患の症状を列挙し説明できる。
- ・精神疾患の診断基準、鑑別診断を説明できる。
- ・精神疾患の身体的治療、心理社会的治療を列挙し説明できる。

【授業実施形態について】

- ・スライド、資料を用いての講義を行う。

【登録のための条件（注意）】

- ・参考文献等を用いて予習・復習すること。

【授業計画】

回	日時	授業内容（担当）	授業時間外の学修
1	6/28（火）1限	身体症状症、不安症	神経系の解剖学・生理学の確認
2	7/5（火）1限	精神病性障害	
3	7/12（火）1限	抑うつ障害・双極性障害、認知症、せん妄	
4	7/19（火）1限	試験	

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（100%）により評価を行う。

【参考文献】

高橋 三郎・他監訳「DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル」医学書院（20,000円）
尾崎 紀夫・他編「標準精神医学（第7版）」医学書院

試験科目名：耳鼻咽喉科学

担当：耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野

【学習の到達目標】

- ・外耳、中耳、顔面神経の構造と機能、隣接臓器との関係を理解し、主な疾患の診断、治療についての基礎知識を習得する。
- ・めまい、内耳、聴神経疾患の病態生理、診断と治療について理解する。
- ・鼻副鼻腔の解剖および隣接臓器との関係、生理、ならびに鼻副鼻腔疾患の病態、診断と治療を理解する。
- ・口腔疾患、咽頭疾患、睡眠時呼吸障害の原因、病態生理、診断と治療を理解する。
- ・喉頭、気管、唾液腺の解剖、生理を理解し、喉頭、気管、唾液腺、頸部疾患、嚥下障害の原因、病態生理、診断と治療を理解する。

【授業実施形態について】

- ・スライド、資料を用いての講義を行う。

【登録のための条件（注意）】

- ・参考文献等を用いて予習・復習すること。

【授業計画】

回	日時	授業内容（担当）	授業時間外の学修
1	4/13（水）4限	めまい、内耳、聴神経疾患（泉）	耳鼻咽喉・頭頸部周辺の解剖学・生理学の確認
2	4/20（水）4限	外耳、中耳、顔面神経疾患（大島）	
3	4/27（水）4限	鼻副鼻腔疾患（佐々木）	
4	5/11（水）4限	口腔疾患、咽頭疾患、睡眠時呼吸障害（馬場）	
5	5/18（水）4限	喉頭、気管、唾液腺、頸部、嚥下、歯科と耳鼻咽喉科（正道）	
6	5/25（水）4限	試験	

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（100%）により評価を行う。

【参考文献】

竹中 洋・他編「コア・ローテーション 耳鼻咽喉科・頭頸部外科」金芳堂（3,200円）
野村 恭也監「新耳鼻咽喉科学 改訂11版」南山堂（16,000円）

試験科目名：皮膚科学

担当：皮膚科学分野

【学習の到達目標】

- ・湿疹、薬疹、水疱症の臨床、成立機序、検査について説明できる。
- ・各皮膚疾患の概略、病態を説明できる。

【授業実施形態について】

- ・スライド、資料を用いての講義を行う。

【登録のための条件（注意）】

- ・参考文献等を用いて予習・復習すること。

【授業計画】

回	日時	授業内容（担当）	授業時間外の学修
1	6/15（水）4限	皮膚の構造と機能、湿疹、遺伝性皮膚疾患（林）	皮膚系の解剖学・生理学の確認
2	6/22（水）4限	扁平苔癬、掌蹠膿疱症、乾癬（安齋）	
3	6/29（水）4限	膠原病と膠原病類縁疾患（濱）	
4	7/6（水）4限	薬疹、ウイルス感染症（長谷川）	
5	7/13（水）4限	水疱症、腫瘍（結城）	
6	7/20（水）4限	試験（安齋）	

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（100%）により評価を行う。

【参考文献】

清水 宏「あたらしい皮膚科学（第3版）」中山書店（8,580円）

科目名：総合模型実習

担当教員名(所属)：魚島 勝美、秋葉 奈美、加来 賢、中村 由紀、新美 奏恵、庭野 和明、杉田 典子、佐藤 直子、長澤 麻沙子、齋藤 夕子

開講番号：220DS504

開講学期：第1学期

水準：15

単位数：3単位

対象学部等：歯学部歯学科5年生

【科目概要】

複数の歯科疾患を同一模型上に再現したものをを用いて、1口腔単位の治療を想定した実習を行う。模型では、う蝕(C2、C3およびC4)、歯周疾患、歯の欠損等が再現されており、これらに対して治療計画を立てるとともに、その治療計画に沿ってマネキン上で治療を行う。これにより、分野ごとに学んできた実習の内容を、より臨床に近い形で統合的に理解し、実践することが本実習のねらいである。小児歯科実習においては別の模型を使用する。

※歯科医師としての実務経験のある教員が、その経験を活かし、臨床の場で実践できる内容の授業を行う。

【科目のねらい】

臨床実習を適切に行うために、治療計画立案に関する知識および治療の実践に関わる技能を身につける。

【学習の到達目標】

- ・ 1口腔単位の治療計画を立案する。
- ・ 概形印象採得を適切に行う。
- ・ ラバーダムを適切に使用する。
- ・ デンタルエックス線写真を読影する。
- ・ 抜歯に必要な器具を選択し、残根を抜歯する。
- ・ スケーリングを行う。
- ・ ルートリセクションを行う。
- ・ ルートプレーニングを行う。
- ・ レジンによる充填処置を行う。
- ・ 抜髄・根管充填を行う。
- ・ 支台歯形成を行う。
- ・ 欠損補綴の種類を選択する。
- ・ 鑄造歯冠修復のワックスアップを行う。
- ・ TEKを製作する。
- ・ ブリッジを作製する。
- ・ 可撤性部分床義歯支台歯の前処置を行う。
- ・ 可撤性部分床義歯を作製するための臨床術式を習得する。
- ・ 可撤性部分床義歯の設計原理を理解し設計する。
- ・ 乳歯列期小児の1口腔単位において、歯面ごとに診断を行い、治療計画を立案する。
- ・ 乳歯の解剖学的特徴を踏まえて修復処置を行う。

【授業実施形態について】

実習とこれに関わるワークシートの記入を主体とする。実習は個人単位で行うので、事前に学生相互で相談することは差し支えないが、他者と同じ実習内容とするのではなく、独自に熟考して実習計画を立てること。したがって、学習者間で実習内容が異なる可能性が高いことを認識しておくべきである。

【登録のための条件(注意)】

本科目では過去に学習した技能関連の知識を背景に、より臨床的な治療のあり方を自ら考え、模型上で実践することが求められる。したがって、実習に先立って各自が十分に過去の個別科目の実習内容に関する復習を行っておくことが必要である。本実習の終了直後より臨床実習が開始されることを十分に意識して臨むことが必要である。また、実習開始時の説明を良く聞いて、あくまでも臨床での歯科治療を意識して実習を行うことが求められる。原則として本実習の欠席は認めないが、やむを得ない事情により欠席する場合はあらかじめ魚島宛て、もしくは本実習のチーフである加来賢先生宛てに連絡すること。これに依れない場合には事後可及的速やかに事情を説明すること。

【授業計画】

回	日時	講義内容(担当)	授業時間外の学修
1	4/12(火) 2-5限	実習内容説明・治療計画立案 以下実習内容は順不同 この間各科教員交代で指導	4年次までに学習した実習内容を全科目について復習しておくことを強く求める
2	4/19(火) 2-5限	抜歯	口腔外科学の復習
3	4/26(火) 2-5限	スケーリング	歯周病学の復習
4	5/10(火) 2-5限	ルートプレーニング	歯周病学の復習

5	5/17 (火)	2-5限	レジン充填	保存修復学の復習
6	5/24 (火)	2-5限	ルートリセクション	歯内療法学の復習
7	5/31 (火)	2-5限	根管治療・根管充填	歯内療法学の復習
8	6/7 (火)	2-5限	インレー製作	保存修復学・歯冠修復学の復習
9	6/14 (火)	2-5限	支台築造	歯冠修復学の復習
10	6/21 (火)	2-5限	全部鑄造冠製作	歯冠修復学の復習
11	6/28 (火)	2-5限	TEC製作	欠損補綴学の復習
12	7/5 (火)	2-5限	撤性部分床義歯製作	歯冠修復学の復習
13	7/12 (火)	2-5限	ラバーダム	保存修復学・歯内療法学の復習
14	7/19 (火)	2-5限	概形印象採得	歯冠修復学の復習
15	8/30 (火)	1-5限	その他臨床手技の再確認	各臨床系科目の復習
16	9/6 (火)	1-5限	その他臨床手技の再確認	各臨床系科目の復習
17	9/13 (火)	1-2限	その他臨床手技の再確認	各臨床系科目の復習小児歯科学の復習
		3-5限	小児歯科実習	

【成績評価の方法と基準】

実習開始時、途中、終了時に配布するワークシートへの記載内容の客観的な評価（80％）と、実習課題の進捗に対する評価（20％）を総合し、60％以上を合格とする。原則として補講は行わないが、60％を下回った者に対しては、実習時間を若干延長して課題を課し、これを再試験扱いとして行うことがある。課題の進捗に関しては、出席状況や実習態度を含めて評価することがある。やむを得ない事情による欠席は仕方がないが、欠席により求められる課題を終了できなくなる可能性があるため、実習の進行状況には常に留意し、計画的な実習を行うこと。

【使用テキスト】

適宜プリントを配布する。

科 目 名：口腔と全身との関わり

担当教員名(所属)：新美 奏恵、小野 和宏、西山 秀昌、辻村 恭憲、田中 裕、山崎 学、齋藤 直朗、上野山 敦士

開 講 番 号：220DS505

開 講 学 期：第1学期

水 準：14

単 位 数：2単位

対 象 学 部 等：歯学部歯学科5年生

【科目概要】

- ・ 歯科治療において全身状態を考慮すべき具体的な臨床症例を題材として、主体的に患者の問題点を調査・抽出し、その対応策についてグループ討論を行い問題を解決する。
- ・ この過程を通じて口腔と全身のかかわりについて学習する。
- ・ 歯科医師として実務経験のある教員が、その経験を活かして、臨床の場で実践できる内容の授業を行う。

【科目のねらい】

安全に配慮した歯科治療を行うために、患者情報の重要性および口腔疾患と全身疾患の関連性、ならびに全身状態を考慮した治療計画の重要性を理解する。

【学習の到達目標】

- ・ 自ら情報の収集と分析を行い、問題点を探ることができる。
- ・ 自らの収集した情報から問題点を把握し、その解決方法をまとめて、他者に伝えることができる。
- ・ 歯科治療を行う際に必要な患者の全身の情報を収集し、注意すべき点を述べるができる。
- ・ 患者の全身状態に配慮した治療計画を立てることができる。
- ・ 患者の全身状態に配慮した全身麻酔計画を立てることができる。
- ・ 患者の全身状態に配慮した検査法を選択できる。
- ・ 摂食嚥下障害の特徴を説明できる。

【授業実施形態について】

学習方法：グループ学習

授業形式：演習

シナリオにもとづいてグループで討議を行い、プロダクトを作成する。その内容に関して教員によるフィードバックを受ける。

毎回出席を原則とし、やむを得ず欠席する場合は、事前に欠席事由を届け出ること。

【授業計画】

回	日時	講義内容(担当)	授業時間外の学修
1	4/13(水) 1-2限	ガイダンス、シナリオ1提示、課題抽出(問題発見～学習課題の設定)	PBLの学習方法について復習しておくこと
2	4/20(水) 1-2限	グループ討議、プロダクトの提出	シナリオ1の学習課題の調査を終えておくこと
3	4/27(水) 1-2限	教員からのフィードバック(セミナー形式)	作成したプロダクトの見直しをしておくこと
4	5/11(水) 1-2限	シナリオ2-1提示、課題抽出(問題発見～学習課題の設定)	シナリオ1の学習内容を復習しておくこと
5	5/18(水) 1-2限	グループ討議、プロダクトの提出	シナリオ2-1の学習課題の調査を終えておくこと
6	5/25(水) 1-2限	シナリオ2-2提示、課題抽出(問題発見～学習課題の設定)	シナリオ2-1の学習内容を復習しておくこと
7	6/1(水) 1-2限	グループ討議、プロダクトの提出	シナリオ2-2の学習課題の調査を終えておくこと
8	6/8(水) 1-2限	教員からのフィードバック(セミナー形式)	作成したプロダクトの見直しをしておくこと
9	6/15(水) 1-2限	シナリオ3提示、課題抽出(問題発見～学習課題の設定)	シナリオ2の学習内容を復習しておくこと
10	6/22(水) 1-2限	グループ討議、プロダクトの提出	シナリオ3の学習課題の調査を終えておくこと
11	6/29(水) 1-2限	教員からのフィードバック(セミナー形式)、トリプルジャンプの説明	作成したプロダクトの見直しをしておくこと
12	7/6(水) 1-2限	筆記試験	シナリオ1-3に関連する設問で行うため、シナリオとプロダクトの復習をしておくこと
13	7/13(水) 1-2限	トリプルジャンプのシナリオ提示(問題発見～学習課題の設定)	トリプルジャンプの評価方法について復習しておくこと
14	7/20(水) 1-2限	トリプルジャンプ自主学习、プロダクトの作成・提出	トリプルジャンプのシナリオの学習課題の調査までを終えておくこと
15	8/31(水) 1-2限	ロールプレイ	作成したトリプルジャンプのプロダクトの見直しをしておくこと
16	9/7(水) 1-2限	試験問題・トリプルジャンプの解説	筆記試験でできなかったところを復習しておくこと

【成績評価の方法と基準】

各シナリオのプロダクト(15%)、筆記試験(70%)、トリプルジャンプ(15%)のパフォーマンスにより総合的に評価する。

科 目 名：口腔インプラント学

担当教員名(所属)：魚島 勝美、前田 健康、小林 正治、藤井 規孝、荒井 良明、長澤 麻沙子、新國 農、小松 康高

開 講 番 号：220DS506

開 講 学 期：第1学期

水 準：14

単 位 数：1単位

対 象 学 部 等：歯学部歯学科5年生

【科目概要】

デンタルインプラントについて、その歴史、種類、検査・診断、臨床手技、危険性、解剖などを統合的に学習する。

※歯科医師としての実務経験のある教員が、その経験を活かし、臨床の場で実践できる内容の授業を行う。

【科目のねらい】

卒業後にデンタルインプラントを適切に臨床応用するために、必要な知識を総合的に身につける。

【学習の到達目標】

- ・デンタルインプラントの意義を説明する。
- ・代表的なインプラントシステムに共通する術式のあらましを説明する。
- ・デンタルインプラントの画像診断について概説する。
- ・上下顎顎骨および周囲軟組織の立体的構造を説明する。
- ・デンタルインプラントに付与する咬合の特徴を説明する。
- ・デンタルインプラント周囲組織の特徴を説明する。
- ・デンタルインプラントの術前処置としての外科的処置を説明する。
- ・デンタルインプラントのメンテナンス方法とその重要性・失敗と危険性、およびその対処方法を説明する。
- ・デンタルインプラントの補綴的意義を説明する。
- ・天然歯保存の可能性を説明する。
- ・デンタルインプラントに関する今後の研究課題を説明する。

【授業実施形態について】

スライド等を用いて講義を行う。一連の講義終了後に希望者に対して、本科目の時間枠内（希望があれば枠外）でインプラントにかかわる臨床見学の機会を設ける可能性がある。その場合には積極的に参加してほしい。Zoomによるリモート講義を行う場合には、別途担当教員からこれに関する情報を事前に送付する。

【登録のための条件（注意）】

あらかじめ講義前にwebや教科書で情報収集をして、各到達目標に対する課題や疑問点を明確化して講義に臨むこと。卒業後にデンタルインプラントの基礎と臨床を総合的に学ぶ機会は非常に少ないので、積極的に学習すること。

【授業計画】

回	日時	講義内容(担当)	授業時間外の学修
1	4/11(月)3限	概説1(歴史・背景・意義・重要性等)(魚島)	インプラントの概要について要点整理
2	4/11(月)4限	概説2(種類・方法・予後等)(藤井)	インプラントの概要について要点整理
3	4/18(月)3限	インプラントの画像診断(新國)	関連する放射線学の復習
4	4/18(月)4限	インプラントと上皮/インプラントの咬合(藤井)	関連する組織学の復習
5	4/25(月)3限	インプラントに必要なマクロ解剖学(前田)	関連する解剖学の復習
6	4/25(月)4限	インプラントに必要な外科処置(小林)	関連する口腔外科学の復習
7	5/2(月)3限	インプラントのメンテナンス(小松)	関連する歯周病学の復習
8	5/9(月)3限	インプラント治療の実際(藤井)	インプラント治療の流れについて整理
9	5/9(月)4限	インプラント治療の実際(荒井)	インプラント治療の流れについて整理
10	5/16(月)3限	インプラント治療と補綴治療(魚島)	関連する補綴学について復習
11	5/16(月)4限	歯の再植(長澤)	歯の再植・移植について要点整理
12	5/23(月)3限	インプラントに関わる研究(魚島)	インプラント研究の現状と課題の整理
13	5/23(月)4限	試験(魚島)	13回目までの授業の復習
14	5/30(月)3限	インプラントの危険性(荒井)	インプラント治療のリスクについて要点整理

【成績評価の方法と基準】

総括的評価：講義最終回に多選択肢形式の筆記試験(100%)により評価する。60点以上の者を合格とする。

【使用テキスト】

赤川安正他編、よくわかる口腔インプラント学 第3版、医歯薬出版株式会社、10,000円+税
講義ノート、その他を担当教員が適宜紹介する。

科目名：臨床予備実習

担当教員名(所属)：藤井 規孝、大内 章嗣、瀬尾 憲司、新美 奏恵、児玉 泰光、佐藤 拓実、金子 昇、庭野 和明、小松 康高、村上 和裕、秋葉 陽介、那小屋 公太、齋藤 直朗、永井 孝宏、山崎 学、田中 裕、竹山 雅規、中島 努、新國 農、小田 陽平(非)

開講番号：220DS507 **開講学期：**第1学期 **水準：**15

単位数：8単位 **対象学部等：**歯学部歯学科5年生

【科目概要】

講義、模型実習と臨床実習の架け橋をなす実習として、これまでの学習内容を実際の患者に直接適用するために必要な事項を学ぶ。すなわち、知識・技術を深めるのみならず、医療従事者として必要な倫理観やコミュニケーション能力の育成をはかるための実習・講義が、歯科系全診療科及び歯科総合診療部の担当の下で行われる。

※歯科医師としての実務経験のある教員が、その経験を活かし、臨床の場で実践できる内容の授業を行う。

【科目のねらい】

一口腔単位の臨床実習を円滑に履修するため、全人的歯科医療の実践に必要な知識・技術・コミュニケーション能力を習得する。

【学習の到達目標】

1. 各種講義

医療面接法

- ・コミュニケーションの目的と技法を概説する。
- ・医療面接の役割を説明する。
- ・医療面接の流れを説明する。

院内感染対策

- ・スタンダードプレコーションと感染経路別対策を説明する。
- ・処置内容に則した適切な手洗いと個人防護の着用を説明する。
- ・針刺し事故(歯科器材による刺傷事故)の対応を説明する。
- ・EPINETの書き方およびその意義について説明する。

医療事故対策

- ・歯科医療における事故の特異性を説明する。
- ・医療事故防止のための組織的リスク管理の必要性を説明する。
- ・医療事故や潜在的医療事故(ニアミス)の情報収集と事例分析の意義を説明する。
- ・医療機関における安全管理体制を概説する。
- ・医療事故やニアミスへの対応を概説する。

歯科診療情報管理

- ・診療録の役割と意義について説明する。
- ・医療情報の標準化と電子化の意義について説明する。

歯科医療行政

- ・歯科医師の法的責務について説明する。
- ・歯科保健医療(医療保険を含む)を取り巻く行政・制度の仕組みの概要を説明する。

2. 各診療科(部)

別途配布するガイドブック参照のこと。

【授業実施形態について】

各種講義については、資料およびスライド等を用いて講義を行う。
各診療科(部)での実習については、診療科(部)ごとに異なるため、詳細はガイドブック参照のこと。

【登録のための条件(注意)】

各診療科(部)でのローテーション実習の日程等については、初回授業時の説明とガイドブックを参照すること。

【授業計画】

回	日時	講義内容(担当)	授業時間外の学修
1	4月第2週～7月第3週までの木、金曜日 ・4/7(木) ・4/8(金)～	臨床予備実習登院式・オリエンテーション 各診療科ローテーション実習開始	詳細はオリエンテーション時の説明およびガイドブックを参照
	4月第3週～7月第2週までの木、金曜日		

2	7/22 (金) 8/26 (金)	共用試験CBT 共用試験CBT再試験	CBT受験注意確認
3	8/29 (月)～9/21 (水) (8/31、9/7の午前と8月 最終週と9月第1週～3週 の火曜日を除く)	各科ローテーション実習	
4	9/22 (木)	臨床実習に関する説明 (歯科総診)	
5	9/23 (金・祝)	共用試験OSCE	OSCE受験注意確認
6	9/26 (月)～10/5 (水)	各科ローテーション実習	

【成績評価の方法と基準】

共用試験 (CBT・OSCE) に合格し、すべての臨床系分野における評価が60点以上の者を合格とする。
最終的な成績は、各臨床系分野の評価 (100%) で決定する。
各臨床系分野の成績評価基準については個別に設定するため、ガイドブックを参照すること。
なお、共用試験の合格基準については別途連絡する。

【使用テキスト】

新潟大学歯学部「臨床予備実習ガイドブック」(オリエンテーションにて配布)
そのほかについてはガイドブック参照のこと。

【参考文献】

ガイドブック参照のこと。

科目名：臨床実習Ⅰ

担当教員名(所属)：藤井 規孝、佐藤 拓実、竹中 彰治、杉田 典子、佐藤 直子、秋葉 奈美、山崎 学、池 真樹子、大島 邦子、倉田 行伸、竹山 雅規、齋藤 直朗、永井 孝宏、那小屋 公太、高 昇将、遠藤 千佳(病)、高野 綾子(病)

開講番号：220DS508

開講学期：第2学期

水準：15

単位数：17単位

対象学部等：歯学部歯学科5年生

【科目概要】

新潟大学医歯学総合病院において担当医の一人として診療に参加し、実地に歯科医学を学ぶ。

※歯科医師としての実務経験のある教員が、その経験を活かし、臨床の場で実践できる内容の授業を行う。

【科目のねらい】

社会の期待に応える医療人になるために、歯学教育モデル・コア・カリキュラムを参考に構築された診療参加型臨床実習を通じて歯科医師に求められる基本的知識・態度・技能を習得する。

【学習の到達目標】

各診療科にミニマムリクワイヤメントを設定する。

各診療科の到達目標は別途配布するガイドブックを参照すること。

【授業実施形態について】

医歯学総合病院歯科総合診療部にて、各診療科の主治医インストラクターの下で担当医の一人として歯科治療を行う診療参加型臨床実習と、各専門診療科において定められた形式で行う分散実習の2つの実習を行う。診療参加型臨床実習については診療ごとにポートフォリオを作成、提出してフィードバックを受ける。

それぞれの実習に関する詳細はガイドブックを参照すること。

【授業計画】

回	日時	講義内容(担当)	授業時間外の学修
1	10/6(木)	医療行政、医療情報、感染予防、医療安全講義	臨床実習オリエンテーション時の説明および別途配布するガイドブック参照すること。
	10/7(金)	OSCE講評、臨床実習オリエンテーション、医療行動科学講義	
	10/11(火)	臨床実習オリエンテーション	
2	10/12(水)	Student Dentist認定式	
	10/13(木)	臨床実習登院式、器具・ユニット説明等	
	-10/31(月)	臨床実習引継	
	11/1(火)	-2023年3/31(金)	診療参加型臨床実習および各診療科分散実習

【成績評価の方法と基準】

実習実績点が400以上に達し、各科ミニマムリクワイヤメントを達成したものを評価対象とし、すべての臨床系分野の課す試験および臨床能力試験(ACKPIS、ATeST)に合格した者を合格とする。

共用試験Post-CC PXはCPXをACKPISの一部として、CSXをATeSTとして実施する。

なお、合否の判定については、「臨床実習Ⅰ」「臨床実習Ⅱ」を一括して行い、最終的な成績は臨床系分野の課す試験(100%)で評価する。

各臨床系分野の成績評価の方法と基準については、ガイドブックを参照すること。

【参考文献】

新潟大学歯学部歯学科臨床実習実施委員会編「臨床実習ガイドブック」(オリエンテーションにて配布)

そのほかについてはガイドブックを参照すること